

"地域のために、稼ぐ。"

地域商社「SAKURAIZE」と石川町で始まる新たな挑戦とは



福島県石川町（いしかわまち）は、福島県の中南部に位置し、町には樹齢約 500 年の名木「高田桜」や、町の川沿いに見事に咲き誇る桜並木があり、毎年春には多くの見物客が訪れます。また、福島県の主要都市である郡山市からは車で約 1 時間と、自然と文化を楽しみながら、バランスの良いライフスタイルを実現することができる地としても注目を集めています。

そんな石川町では現在、2024 年 4 月に設立されたばかりの「一般社団法人 地域商社 SAKURAIZE（サクライズ）（以下、SAKURAIZE）」のメンバーとして、石川町の魅力や商品を全国に繋げる活動を共に進める、地域おこし協力隊を募集しています。

今回は、SAKURAIZE の立ち上げから現場の統括までおこなっている、SAKURAIZE 事務局長の南條さんより、SAKURAIZE で実現したい未来や、そこに込めた想いについてお話を伺いました。

事業の軸は「石川町の人々が豊かに暮らせるようにする」こと。

一はじめに、SAKURAIZE の概要についてお聞かせください。

私たち SAKURAIZE は、石川町の観光物産を全国に繋げて「稼ぐ」ことで、地域への投資を促進し、地域全体の発展を目指す「地域商社」として 2024 年 4 月に設立されました。もともと SAKURAIZE の前身として観光物産協会があったのですが、会員事業者や地域からの多様化するニーズに応え、既存の取り組みの枠を超えて活動の幅を広げていくために法人化した組織です。

現在メインで動いているのは、私とサントリーから出向してきている方の 2 名に加え、事務局スタッフ 1 名、石川町から受託・運営する店舗（石川町立歴史民俗資料館（イシニクル）内物販店）スタッフが数名います。

「SAKURAIZE」という名前は、Sakura（桜）×Surprise（驚き）×Rise（上昇）という、3 つの言葉を掛け合わせた造語によって作られた名前です。石川町の象徴である美しい「桜」というワードと、私たちの活動によって地域の方々にたくさんの予想外な驚きと喜びを提供し、地域が成長していく様を表現して命名されました。

地域商社として、「新しいものを生み出す」ことと、「石川町の良いものを外に発信する」ことが SAKURAIZE の本質です。“良いものを売れるものに”というコンセプトで、地域の生産者やものづくりをする事業者と共に、新商品開発や消費者との接続機会創出、販路拡大に動いています。

地域の物と人、人と人などを繋いで「地域で稼ぐ」という視点を持って事業を作り、生まれる利益を地域に投資することで石川町を豊かにしていくことが SAKURAIZE が担うべき役割です。



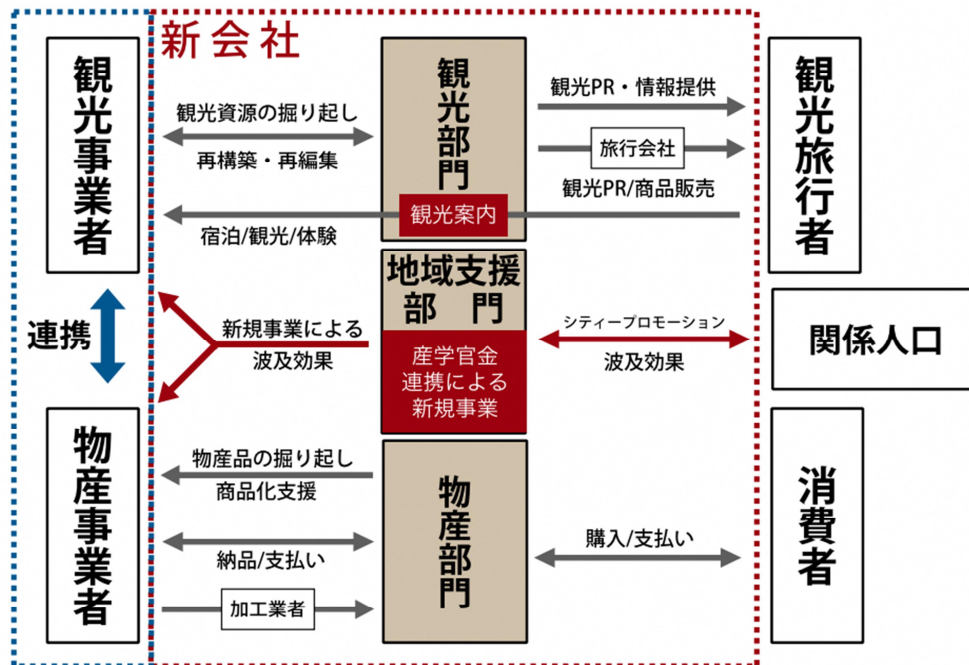
魅力を掘り起こす「発見」とプロモーションやセールスなど対外的に伝える「発信」を繋げ、地域を見つめる顔をイメージして作られたロゴ

—現在 SAKURAIIZE で取り組まれている事業について教えてください。

まだその多くが準備段階ではあるのですが、大まかに言うと収益事業と公益事業の二軸で事業が構成されています。収益事業の一例としては、ふるさと納税事業や町の商品を販売する EC サイト運営事業などがあり、現在は年内の EC サイト開設を目指してホームページの準備と、そこで販売する商品集めを進めている状態です。また、イシニクル内での店舗運営を行っています。

公益事業では、自治体からの受託事業として観光用パンフレットの用意や、町と共同で行う石川町の PR イベントの開催、SNS 等による情報発信などがあります。

◆事業スキーム



新しいものを生み出すという点で、まだこれも準備段階ではありますが「ISHIKAWA PIECE」というオリジナルブランドの立ち上げ、地域の産品を活用して新たな商品開発やプロデュースに向けた取り組みも進めています。石川町にある農産品や加工品、工芸品はもちろん、石川町で体験できるもの全てが石川町を形づくる大切なピースである、というコンセプトのもと、それらの価値を最大限に発揮して人々の手に届くようプロデュースをしたいと考えています。

これまで既存の商品を作ることだけに専念して、新たな商品開発ができていなかった事業者さんたちが、私たちの支援によって新しい挑戦ができるようになってくれれば、双方の利益にも繋がります。このように、SAKURAIZE は地域の事業者さんたちと密接に関わりながら、利益の追求をしていきます。

—設立からの手応えはいかがですか？

思っていた以上に町からの SAKURAIZE に対する期待の大きさを感じますし、地域から必要とされているのだなと思えるシーンが多々あります。事業者さんや生産者さんたちと話す「直売とかは自分たちでできるけど、それ以外の EC サイトなどの販路開拓は任せたい」「自分たちは作ることに専念したいから、それ以外のことはお願いします！」と言ってくれる方も多く、期待の大きさに加えて、私たちが担える領域の広さも実感しています。

ただその一方で、立ち上がったばかりの組織ですので仕方のないことですが、私の頭の中には SAKURAIZE でやりたい事業のアイデアがまだまだたくさんあるにも関わらず、マンパワーが足りないがために動かせていないものがたくさんあります。

SAKURAIZE という組織を継続させていくためには、もっとスピード感を持って事業の種を形にしていく必要があります。そのためには一緒に進めていく仲間が必須ですから、人材の採用と育成も重要事項と考えています。

—SAKURAIZE の今後のビジョンを教えてください。

私の中には常に「石川町の人たちが豊かに暮らせるようにしたい」という軸があります。「豊かさ」の定義は人によってさまざまですが、それぞれが思う「豊かさ」のために SAKURAIZE ができることは何なのかを考え、それを実現していきたいと思っています。

石川町の将来を考えると、自治体に代わって地域に投資できる組織が必要です。そのために SAKURAIZE は稼がないといけません。地域にある良いものを商社としてどんどん地域外に送り出し、しっかりとそこで外貨を得る。そしてその外貨を地域に還元していくという仕組みで、石川町の方々の「豊かさ」を実現したいと思っています。

せっかく地域商社として立ち上がったわけですから、まずは3年以内に結果で示すことができるよう「やれることは何でもやる！」というスタンスで日々考えて、実行することを繰り返していきます。

何もやっていないからこそ、何でもやれる。

—南條さんから見た石川町はどのような個性があると思いますか？

言葉を選ばず言うと、石川町は「まだ何もやっていない町」だと思っています。ただ逆にそれは大きなチャンスでもあって、かなり大きな可能性を秘めている町だともいえます。

例えば、石川町には町民なら誰もが知っている『お菓子のさかい』

(<https://sweetssakai.kawaiishop.jp/>) という美味しいお菓子屋さんがあるのですが、まだまだ、町外では知らない方もいます。また、町のシンボルともいえる桜に対する誇りは皆持っていますが、それを地域の観光づくりに活用できているかという点、まだまだできることがあるような気がします。

他にも、石川町には高校が2つ存在しているのですが、この規模の町としてはなかなか珍しいことなのにも関わらず、うまく町のPRには繋がられていません。一部の取り組み事例として、10年前から「まちプロ」という、町内の県立石川高校と学校法人石川高校の生徒たちと一緒にまちづくり活動をしているのですが、今では、高校生の時に「まちプロ」に参加していた高校生が教員として地元でUターンで帰ってきて、「まちプロ」の活動を再び盛り上げようとしてくれています。

地域づくりの取り組みとして始めたことが、このようなうれしい形で返ってきてくれることもあります。そういった、誰も活用していないけどすてきな素材が、石川町には点在している状態だと思っています。そこに対して可能性を感じますし、やれることがたくさんありますね。



「まちプロ」の活動の一つとして発行している情報誌

—これから SAKURAIZE に加わるメンバーはどのような経験ができますか？

SAKURAIZE は今年の4月に立ち上がったばかりの、まさに黎明期で、あらかじめ決められている仕事の「型」はありません。自分がやってみたいと思った事柄に対してチャレンジできる機会はありますし、その過程で様々な経験値が得られると思います。

人に決められたプロセスで動くのではなく、自分で決めた道筋でチャレンジすることができる。だからこそ、失敗や成功を通じて学べる内容はとても濃いものになりますし、そうした原体験を積むことで身をもって「成功する仕事の進め方」を身につけていける機会になるはずです。

自分の頭で考えて、一つ一つ事業や仕事を作っていくというキャリアの積み重ねは、これから地域でビジネスを行いたい方にとっても、会社員としてスキルを磨いていきたい方にとっても、とても有益なものだと思います。

もちろん最初のうちはある程度私からの業務の依頼を通じて SAKURAIZE での仕事を覚えていただくことになると思いますが、成長の度合いや熱意さえあれば、ぜひ自ら声を上げて事業を作ってほしいと考えていますので、明確なものでなくとも、自分がいつかやってみたい目標のようなものがあると良いですね。それぐらい SAKURAIZE にはチャレンジする機会がたくさんあります。設立間もない地域商社という舞台で自分の想いを自分で形作ることができるのは、黎明期から加入するメンバーならではないでしょうか。

プロセスを創り上げ、スピード感を持って試行錯誤を繰り返しながら進めていくことにワクワクできる方と一緒に仕事ができるとうれしいです。

現在 SAKURAIZE ではメンバーを地域おこし協力隊として募集中です。

少しでもご興味あれば、ぜひ応募・問い合わせください。

1. “良いものを売れるものに”を掲げる、地域商社のプロジェクトマネージャー候補
2. 「食べる」で石川町と世界を繋げる、ローカルフードプロデューサー
3. まちの魅力を引き出し、世界に売り込む営業 兼 編集者